

特別展観覧料金()内は団体料金
 一般 300円 | 小・中学生 150円
 (210円) (105円)



一特別映像展示上映
 『十九の春』撮影風景(約6分)
 『十九の春』(1933年/五所平之助監督)の撮影時、映画デビュー4年目の高峰秀子の貴重な記録映像です。

映画女優 高峰秀子



昭和4(1929)年、家族と松竹蒲田撮影所の見学に訪れた5歳の少女は、野村芳亭監督の大作『母』のオーディションに合格し、ここに<高峰秀子>が誕生しました。養母の芸名を継いだ彼女は、またたく間に天才子役としての人気を獲得し、<秀坊><秀ちゃん>と親しまれました。

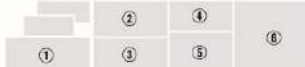
12歳でP. C. L(後の東宝)に移籍、<デコちゃん>の愛称でアイドルの仲間入りを果たしました。名匠・山本嘉次郎によるベストセラー『綴方教室』の映画化と、若き黒澤明が助監督を務めた『馬』で少女スターの地位を確立。戦後も小津安二郎、成瀬巳喜男、木下恵介らの名匠、巨匠の作品に起用され、<子役は大成しない>のジンクスを見事に覆しました。人気絶頂の最中、半年余りのパリ遊学を決行し、帰国後の活躍は演技派女優、大スターとしての地位を揺るぎないものとなりました。

また、随筆などの分野でも個性あふれる作品を発表し、自伝『わたしの渡世日記』は日本エッセイスト・クラブ賞を受賞しました。女優生活50年を境に現役引退を表明し、文筆活動以外の登場は極力避け、最愛の松山善三監督との日々を大切に守り通しました。2010年12月28日の大女優の訃報は、年明けの1日にもたらされて世間に衝撃を与えました。

本展では、86歳までの生涯で50年に及ぶ映画女優の軌跡を、ポスター、写真、資料などでたどるとともに、代表的作品も上映いたします。



展示写真レイアウト



①高峰秀子寄贈アルバム②『雁』(ポスター)③『永遠の人』(ポスター)④カラー・ポートレイト
 ⑤『女が階段を上る時』(ポスター)⑥『名もなく貧しく美しく』(海外版ポスター)



<展示協力>
 高橋明美氏/
 東京国立近代美術館フィルムセンター

映画観賞料金

一般 1000円 | 小・中学生 500円

映画観賞券のご提示で企画展もご覧いただけます。販売枚数に達した場合、当日券の販売はございません。

(記念館窓口、鳥森書店(鎌倉店)、たらば書房にてチケット販売)

全作品上映開始は午後2時~

各映画初日の火曜日、金曜日は2回上映、午前11時~と午後2時~

※今回は変則的な上映時間になっておりますので、ご注意ください。『喜びも悲しみも幾歳月』と『二十四の瞳』の午前中の上映開始時間は、午前10時30分~になります。

チケット発売 10月20日(土)

11月6日(火)午前11時~、午後2時~
 7日(水)/8日(木)は午後2時~

綴方教室

87分/白黒/35mm/1938年
 原作:豊田正子
 監督:山本嘉次郎
 撮影:三村明
 共演:徳川夢声、清川虹子、滝沢修、三島雅夫

天才子役として活躍し「デコちゃん」の愛称で親しまれた高峰14歳の主演作。豊田正子のベストセラー本を原作に、貧しい日常生活を少女の素直な視点で描いた作品。本作で製作主任である黒澤明との印象的な出会いとなった。キネマ旬報第5位。

チケット発売 10月20日(土)

11月9日(金)午前11時~、午後2時~
 10日(土)/11日(日)は午後2時~

馬

129分/白黒/35mm/1941年
 監督・脚本:山本嘉次郎
 製作主任:黒澤明
 音楽:早坂文雄
 共演:藤原釜太(釜足)、竹久千恵子、丸山定夫、沢村貞子

3年の歳月をかけ春夏秋冬に渡って撮影された少女時代の代表作。岩手山の麓を舞台に、高峰の演ずる農家の娘いと愛馬との愛情溢れる交流が描かれる。戦時下の厳しい世相のなか、高峰は明るいキャラクターで国民的人気を博していた。キネマ旬報第2位。

チケット発売 10月20日(土)

11月20日(水)午前10時30分~、午後2時~
 21日(木)/22日(金)は午後2時~

喜びも悲しみも幾歳月

160分/カラー/35mm/1957年
 原作・脚本・監督:木下恵介
 撮影:橋田浩之
 音楽:木下忠司
 共演:佐田啓二、有沢正子、田村高廣、桂木洋子

高峰と佐田啓二の演ずる灯台守夫婦の25年に渡る歳月を描いた作品。全国津々浦々をロケした美しい日本の風景で彩る年代記。若山彰が唄った主題歌とともに大ヒットを記録した。キネマ旬報第3位。毎日映画コンクール女優主演賞。

チケット発売 10月20日(土)

11月2日(金)午前11時~、午後2時~
 24日(土)/25日(日)は午後2時~

浮雲

124分/白黒/35mm/1955年
 原作:林芙美子
 監督:成瀬巳喜男
 脚本:水木洋子
 共演:森雅之、中北千枝子、岡田茉莉子、加東大介

小津監督に「オレにできないジャンは溝口の『祝福の姉妹』と成瀬の『浮雲』だ」と言われ、高峰への手紙で成瀬監督との「最高の仕事」と評した作品。共演した森雅之も素晴らしい、恋愛映画の傑作として名高い。キネマ旬報第1位。

チケット発売 11月17日(土)

12月4日(火)午前11時~、午後2時~
 5日(水)/6日(木)は午後2時~

カルメン故郷に帰る

86分/カラー/35mm/1951年
 監督・脚本:木下恵介
 撮影:橋田浩之
 音楽:木下忠司
 共演:小林トシ子、坂本武、佐田啓二、笠智衆

日本初のオール・カラー劇場映画で木下作品は本作が初出演となる。愛すべきストリッパー、リリィ・カルメンを演じ、木下監督がベネチスに落ちた喜劇に仕上げた。後に夫となる松山善三は本作で助監督として参加している。キネマ旬報第4位。

チケット発売 11月17日(土)

12月7日(金)午前10時30分~、午後2時~
 8日(土)/9日(日)は午後2時~

二十四の瞳

156分/白黒/35mm/1954年
 原作:壺井栄
 監督・脚本:木下恵介
 音楽:木下忠司
 共演:月丘夢路、田村高廣、井川邦子、笠智衆

木下・高峰コンビの代表作。小豆島を舞台に、高峰演じる大石先生と教え子たちとの戦争をはさんだ交流を描く国民的名作。題名は12人の教え子たちの瞳を数えたもの。高峰は本作で初めて19歳から46歳まで演じた。キネマ旬報第1位。

チケット発売 11月17日(土)

12月18日(火)午前11時~、午後2時~
 19日(水)/20日(木)は午後2時~

張込み

116分/白黒/35mm/1958年
 原作:松本清張
 監督:野村胡堂
 脚本:橋本忍
 共演:大木実、宮口精二、田村高廣、高千穂ひづる

松本清張原作によるサスペンス映画の傑作。高峰は二人の刑事の張込みのもと、犯人の首の恋人であり、現在は後妻として暮らす女性を演じる。抑えた演技のなかに女の情念を垣間見せ、強い印象を残した作品となった。

チケット発売 11月17日(土)

12月21日(金)午前11時~、午後2時~
 22日(土)/23日(日)は午後2時~

無法松の一生

104分/カラー/35mm/1958年
 原作:岩下俊作
 監督・脚本:橋田浩之
 脚本:伊丹万作
 共演:三船敏郎、芥川比呂志、飯田蝶子、笠智衆

戦中の作品を稀に監督自ら、美しい色彩とシネマスコープの大画面でリメイクした名作。無法松と呼ばれる人力車夫・松五郎に三船敏郎、彼を信頼する末っ子人を高峰が演じる。ヴェネチア国際映画祭グランプリ。

チケット発売 11月17日(土) 2回上映

12月24日(月)午前11時~、午後2時~
 25日(火)午前11時~、午後2時~

女が階段を上る時

111分/白黒/35mm/1960年
 監督:成瀬巳喜男
 脚本:菊島隆三
 音楽:黛敏郎
 共演:森雅之、岡譲子、仲代達夫、加東大介

銀座のバーの雇われママを演じる。夫との死別後、持ち前の堅実さを貫きつつも、男との情には抗しきれない女を凛とした姿に描く。高峰は本作の衣装を担当、その和服のデザインも見所の一つ。

チケット発売 11月17日(土) 2回上映

12月27日(木)午前11時~、午後2時~
 28日(金)午前11時~、午後2時~

名もなく貧しく美しく

129分/白黒/35mm/1962年
 監督・脚本:松山善三
 撮影:玉井正夫
 音楽:林光
 共演:小林桂樹、島津雅彦、草笛光子、沼田曜一

夫である松山善三の監督デビュー作。高峰は小林桂樹との若者同士の夫婦として幾多の困難を生き抜いていく。手紙で交わされる会話表現に新境地をみせた感動的名作。キネマ旬報第5位。毎日映画コンクール女優主演賞。

※一部の作品に映像・音声の乱れがありますことを予めお詫言申し上げます。

チケット発売 12月15日(土)



1月6日(火)午前11時～、午後2時～/
9日(水)/10日(木)は午後2時～

山河あり

127分 / 白黒 / 35mm / 1962年
企画：木下恵介
監督：松山善三
脚本：松山善三、久板栄二郎
共演：田村高廣、久我美子、
小林桂樹、ミッキー・カーチス

移民船に乗りハワイへと渡った日本人家族の年代記。高峰は戦争によって人生を翻弄された女性の姿を力強く演じる。本作は高峰の最も信頼する床山師・小林重雄との仕事でもあり、ハワイ・ロケ中は現場の世話係も担当した。

チケット発売 12月15日(土)



1月22日(火)午前11時～、午後2時～/
23日(水)/24日(木)は午後2時～

六條ゆきやま軸

106分 / 白黒 / 35mm / 1965年
監督・脚本：松山善三
撮影：岡崎宏三
音楽：佐藤勝
共演：神山繁、毛利菊枝、
小林桂樹、フランキー堺

松山監督のオリジナル・シナリオによる作品。ゆきやま軸の伝統をもつ由緒ある旧家に嫁いだ芸者いねを演じる。未亡人となり周囲のいじめをうけつつも、伝統の復活に尽力し…。雪国を舞台に、白黒の映像で描いた力強い風景が高峰の存在を引き立てる。

チケット発売 12月15日(土)



1月11日(金)午前11時～、午後2時～/
12日(土)/13日(日)は午後2時～

放浪記

123分 / 白黒 / 35mm / 1962年
原作：林芙美子
監督：成瀬巳喜男
脚本：井出俊郎、田中澄江
共演：田中絹代、宝田明、
加東大介、小林桂樹

高峰が創り上げた「ふみ子」の演技が、公開当時、賛否両論を巻き起こした。高峰にとって成瀬監督は「シンディ人」でありながらも、不動の名コンビであった。また、「浮雲」とともに最も愛着のある作品として本作を上げている。

チケット発売 12月15日(土)



1月25日(金)午前11時～、午後2時～/
26日(土)午前11時～/27日(日)は午後2時～

恍惚の人

102分 / 白黒 / 35mm / 1973年
原作：有吉佐和子
監督：豊田四郎
脚本：松山善三
共演：森繁久彌、田村高廣、
乙羽信子、篠ひろ子

当時、流行語となったベストセラー小説の映画化。文芸映画の巨匠、豊田四郎が監督。森繁久弥が真に迫る認知症の男を演じ、高峰はその介護に向き合う嫁を演じた。現代の高齢化社会を予言した名作。※26日は午前11時～の上映です。



斎藤明美さん
作家

連続講座 & 著書のサイン会

講座 1回につき料金 1000円

※1月26日午前11時～
「恍惚の人」の上映がございます。

第1回：「高峰秀子 天才子役から少女スターへ」 11月17日(土) 午後1時開始

第2回：「高峰秀子 女優時代」 12月1日(土) 午後1時開始

第3回：「高峰秀子 引退後の日々」 平成25年 1月26日(土) 午後2時開始

チケット発売日 第1回 10月20日(土) 第2回 11月17日(土) 第3回 12月15日(土)

1956年高知県生まれ。津田塾大学卒業。高校教師、テレビ構成作家を経て「週刊文春」の記者を20年務める。1999年、初の小説「青々と」で第10回日本海文学大賞奨励賞受賞。2009年、脚本家・松山善三と女優・高峰秀子の養女となる。著書に『高峰秀子の捨てられない荷物』(新潮文庫)『高峰秀子の流儀』『高峰秀子との仕事1・2』(新潮社)『最後の日本人』(清流出版)など。現在、雑誌「波」に「高峰秀子の言葉」を連載中。

【次回予定】

企画展 『映画監督 大島渚 & 女優 小山明子』

平成25年2月1日(金)～3月31日(日) ※展示及び上映もございます。

2012年12月5日は、木下恵介監督の生誕100年にあたります。



www.kinoshita100.jp

「友の会」 会員を募集中

<会員特典>

☆映画鑑賞引き換え券を2枚プレゼント

☆企画展・上映スケジュールのチラシ、

講演会など各種イベント案内会報の郵送

☆企画展観覧料は無料

(ただし映画、講演会等は有料)

そのほか「友の会」会員向けのイベントがあります。

☆年会費は2000円。

会費・お申込み方法など、

詳しくは記念館窓口にお問い合わせください。



Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

TEL: 0467-23-2500

HP: <http://www.kamakura-kawakita.org>

最新情報はWEBで

上映作品のスケジュール

記念館だよりなど、情報が満載です!



開館時間

9:00～
17:00
(入館は16:30まで)

休館日

毎週月曜日
12月29日(土)～平成25年1月3日(木)
12月24日(月)、平成25年1月4日(月)
振替館: 12月25日(火)、平成25年1月15日(火)

鎌倉市川喜多映画記念館



鎌倉駅より
徒歩8分